

見る見る見た目展

2021.11.27 SAT. – 12.5 SUN.

11:00 – 21:00 (LAST DAY – 18:00)

@ART・IN・GALLERY 入場無料

主催：弱みを握る寿司屋

良くも悪くも大きな影響力をもつ「見た目」。見た目にはどんな意味があり、私たちに何を伝えているのだろうか?見た目から受ける印象は、本当に正しいのだろうか？

私たちは見た目によって誤解をしていたり、本質を見失ってしまうことがあります。

形状が悪く破棄されてしまう食物、加齢による変化を極度に恐れる風潮、姿かたちだけで嫌われている虫など、見た目の課題（弱み）を観察し、「見た目」と「本質」のギャップから作品制作を試みました。

文字を見る見る（末廣翼）、食品の映えを見る見る（札幌靖明）、ゴキブリを見る見る（深瀬創）など、それぞれが、自身の考える「見た目」について考察しています。

ご来場いただいた方には、各作品から「目を奪われたアイデア」を評価いただくため、「目玉シール」を配布いたします。最終日に投票いただいた目玉を並べて集計する予定です。

14名のアートディレクターたちが、身近なものの「見た目」に捉われず、どんな新たな一面を見つけていくのか。ぜひ「見る見る見た目展」を、お楽しみください。

6 GRAPHICS CREATED WITH DIFFERENT COLORS THAN USUAL

浅岡 敬太 Keita Asaoka

色は、人がものや情報を目で見て認識する際に、非常に重要な要素のひとつで、常に様々な影響を受けています。例えば赤色だと、太陽や血液、火、トマトなどを連想します。活動的・情熱的・感情的な色で、アグレッシブな強いエネルギーを感じさせる色です。時には攻撃的な印象を与えることもあります。また、人に警戒心を抱かせたり、注意を喚起したり、神経を興奮させて心拍数を上げる効果があります。そこで、様々なモチーフや情報が、普段認識している色ではなく、普段と異なる色で表現されているとき、モチーフや情報と色のズレが視覚的にどのような印象を与えるかを検証したグラフィックです。

7 違う視点で見てみよう！ 頭と視覚の柔軟体操

楠 俊之 Toshiyuki Kusu

コロナ禍で非対面のコミュニケーションが推進され、それに伴いインターネット経由のコミュニケーションがより多くなってきました。そんな中でインターネットでの誹謗中傷、デマの拡散、同調圧力などデメリットもより顕著になってきました。1つの要因として、人間は無意識で「自分は正しい」、「願望を通したい」と考え、先入観や思い込み、偏った考えを持ちやすいことがあげられます。今回はインターネットでの「思い込み・先入観」を課題と捉え、トリックアートを使いまう一つ違った見え方をプラスすることで、新しい視点を発見するきっかけになればと思っています。

8 おひねりの“USAMOYO”

片渕 純平 Junpei Katafuchi

私事ですが、たまにしか会えない甥っ子姪っ子に、たまになのでお小遣いをあげたりしていたのですが、幼いこともあり、1000円以上だと、その親（私の兄姉）に氣を使わせてしまうので、500円にしておりました。それで500円を渡すときに裸で渡すのは氣が進まず、あのおおあちゃんのティッシュ的な、程よい優しさを感じる入れ物か包むものはないかと考えていたところ、おひねりに辿り着きました。おひねりは元々神事でお米やお金を包みお供え物として使われ、今では演劇や舞台でしか見ない物になっております。こんなに造形的な可愛さがあるのになぜ普及していないのだろうかと疑問符が浮かび、少し見え方を変え、キャンディのようなポップな印象にすることで上記のような些細な場面でも使えるのではないかとと思い、制作いたしました。私と似た悩みをお持ちの方、ぜひ試してみてください。

5 それって ふつう？

山口 範久 Norihisa Yamaguchi

見た目って聞いてドキッとしたことありませんか？ みんなと一緒にかな？ 変じゃない？ 変わってる？ ふつうじゃない？ 誰しもが抱いたことのある感情だと思います。また見た目には、見栄えの悪い野菜や、ひと目で食べてはいけないと感じるキノコの柄などもあります。人の見た目と同じく、そこには見る側の理解の範囲内にあるわかりやすさ＝自分にとって「ふつう」であるという安心感が深く関わっています。ふつうか、ふつうじゃないか、それが見た目に対して受け入れられるのか、そうじゃないのか、の根本だと思います。僕、カブトムシが大好き！ あいつ、とっても足が速いんだぜ！ 払ってこんなに背が低いの。スカートが苦手なあの子。彼のことが好きでしょうがない僕。それってふつう？ どれがふつうで、どれがふつうじゃないのでしょうか？ ふつうってどういうことなんだろう？ この絵本を通し、見た目に対して、偏見に対して、考えるきっかけになればと思っています。

4 大きすぎる数字の弱み UNCONSCIOUS LOSS

福原 あい Ai Fukuhara

日本の食品廃棄物は年間2,531万トン。中でも、食べられるのに捨てられる食品「食品ロス」の量は約600万トン、そのうち家庭から出る食品ロスは276万トン。1人当たりで計算をすると年間1人約47kg食品を捨てていることになります。このように、データはすぐ分かりますが、数字が大きすぎて中々自分ごととして考えづらいのが食品ロスの弱みのように感じました。しかし、これを毎日おにぎりや1個捨てている量と同じと考えるとどうでしょう。作った人の想いも無意識に捨てているとしたら。捨てることでいつの間にかお金がかかっていると考えたら。そんな無意識でやってしまう日常の食品ロスの瞬間をビジュアル化しました。食品ロスを無くす取り組みは様々なアイデアや技術で行われていますが、今日から誰でも出来る事は「買った物を美味しく食べきる意識を持つこと」だと思います。

3 本当に正しく見ている？ Misperception Products

神岡 啓介 Keisuke Kamioka

みなさまがしかくからえているじうほうは、ほんとうにありのままをとらえているのでしょうか？ にんげんのうはともゆうゅうしうでかこのけいけんにもとづいて、むいしきにしかくからえたじうほうをのうがほかんしてくれているのです。たえとばこのぶしんようもまがちいがあるのですがきっとりかいすることができているでしょう。そんなにんげんがいかにみためからのおもこいみにとらわれているかをきづくきっかけになる、そんなさくひんをつくりました。

2 己己己己？ 四つの漢字に込められた意味

石川 瑞貴 Mizuki Ishikawa

見た目や心、そして人々の日常や世の中をあらわすために用いられてきた比喩表現として「四字熟語」があります。会話のなかで出てきても、音として聞くと漢字のイメージと結び付かず意図が伝わりにくいことはしばしばあります。ところで、「己己己己」という四字熟語を見てどんな意味を想像できるでしょうか。それぞれの字形が似ていることから、互いに似ているものの喩えだそうです。読み方がわからなくても見て想像してみるとわかる、ちょっとしたユーモアを感じました。一見すると漢字だらけで難しそうな四字熟語ですが、たった四つの漢字に込められた意味を考えると少しワクワクしたので、見て、想像するグラフィックとともに紹介します。

1 親は子を映す鏡 NOW & FUTURE

長友 友樹 Yuuki Nagasaka

コロナ禍での生活も2年目を迎え、実家に帰れなかつたり、親に会えなかつたりする日々が続く中で、子供の頃は母親似と言われていた私が、ふと鏡を見ると父親に似てきたのではないかと気がきます。「子は親を映す鏡」ということわざがありますが、その逆で、年を重ねることに自分自身が父親に似ていく様は「親は子を映す鏡」とも言えるのではないかともしました。加齢はネガティブに捉えられがちですが、日々自分自身と向き合う鏡の中で、自分と親とを重ねることで、先行きが不透明な状況を少しでも可視化し、将来の自分自身を見つめることに繋がるのではないかと考えました。

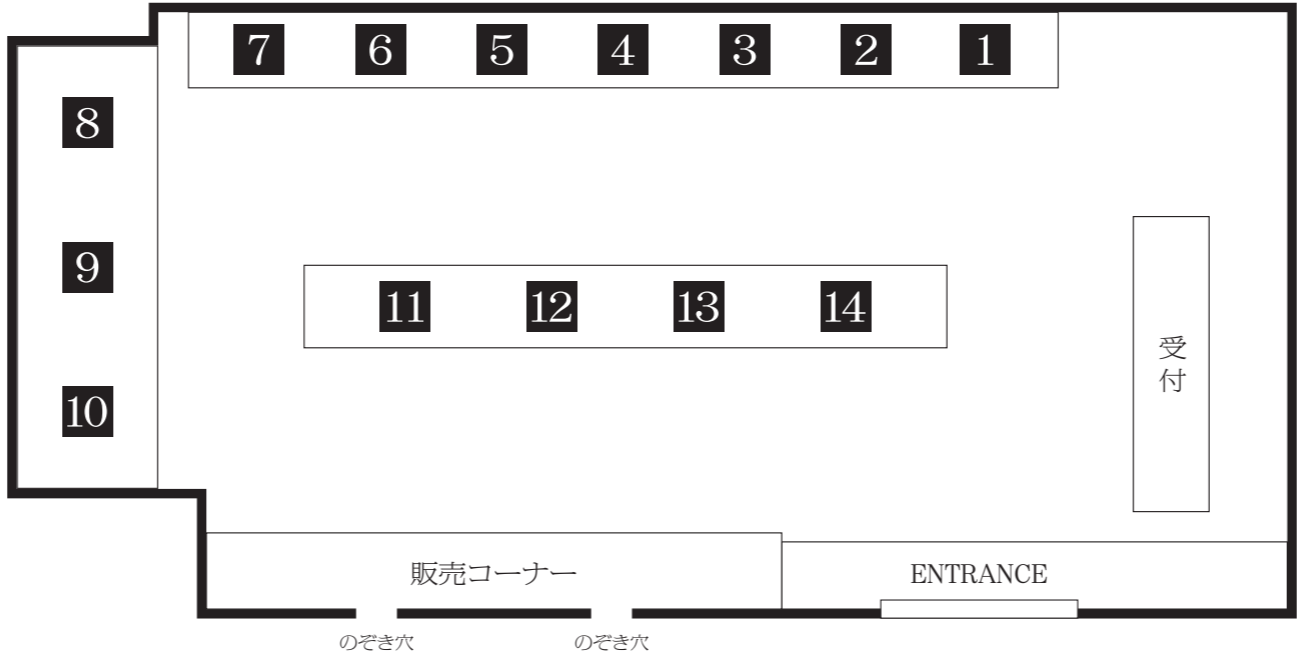
14 不良良品 ゲッティ 発注ミスで、ふしぜんとうこうなりました。

札幌 靖明 Yasuaki Fudaba

食品の映えに着目し、その起源であるスバゲティーの持ち上げ*をモチーフとした作品です。使い古された表現であるスバゲティーの持ち上げは、レストランやパッケージなどで見慣れ過ぎており、わざわざ写真に撮ってSNSにアップする人なんていません。しかし重力を超越し、持ち上げを限りなく伸ばすことができれば、再び脚光を浴びることができると考えます。既存の形や見方が変わってしまったものに対し、新しい価値を見出し、それを受け入れる寛容な心を持つことができれば、もう少しこの世界は生きやすくなるのではないのでしょうか。不良良品ではそれを伝えたいです。是非、写真に撮って、ご自身のSNSにアップしてみてください。

#不良良品 #ゲッティ

*自論です。



9 昆虫食おままごとセット FunCap! 消毒液の帽子

北 恭子 Kyoko Kita

人には「嫌悪」という感情があります。「嫌悪」は、病原体など目に見えない危険を察知する感情。私たちが昆虫を丸ごと「嫌悪」する理由は、防衛本能でもある。しかし実際は、病原体などの心配がある昆虫はさほど多くありません。・昆虫は、必ず加熱して食べる（豚肉と同じ）・羽や足など口触りの悪い部分はとる（野菜の皮と同じ）・調理前と後で調理器具を分ける（生肉の扱いと同じ）昆虫にも肉や魚とおなじく、安全な食べ方があります。それが体験できるよう、このおままごとセットでは、食材であるゼミの羽が取れたり、バッタの足が取れたり、生の昆虫を扱うピンセットがあったり。リアルな昆虫食メニュー（3品）の香りも再現しました。昆虫を食べるかどうかは自由。でも食べる選択をした人を、偏見の目で見てしまうことがないように。想像力と理解を育むおままごとセットです。

10 FunCap! 消毒液の帽子

橋口 恭子 Kyoko Hashiguchi

1日何度も消毒することが日常になった 家に帰れば消毒 食べる前にも、電車から降りても消毒… 手を出してシュッと消毒するたびに、気をつけなきゃと 少しピリッとした気持ちになる そんな気持ちが和んだらと喋る消毒液の帽子をデザインしました 「いらっしゃいませ」と迎えてくれる ・羽や足など口触りの悪い部分はとる（野菜の皮と同じ） ・調理前と後で調理器具を分ける（生肉の扱いと同じ） 昆虫にも肉や魚とおなじく、安全な食べ方があります。それが体験できるよう、このおままごとセットでは、食材であるゼミの羽が取れたり、バッタの足が取れたり、生の昆虫を扱うピンセットがあったり。リアルな昆虫食メニュー（3品）の香りも再現しました。昆虫を食べるかどうかは自由。でも食べる選択をした人を、偏見の目で見てしまうことがないように。想像力と理解を育むおままごとセットです。

11 THE RISE OF COCKROACHES ゴキブリたちの夜明け

深瀬 創 Hajime Fukase

いつの時代も嫌われもののトップに君臨しているであろう生き物、ゴキブリ。見た目が気持ち悪い。逃げ足が早い。急に飛ぶ。狭い場所から突然あらわれ、私たちを動揺させる。存在自体が意味不明。しかし待ってください。私たちは、どれほど彼らのことを知っているでしょうか。知らない・わからないものには私たちは恐怖心や嫌悪感を抱きます。実はよく知らなかったゴキブリたちのこと。知れば色々な側面が見えてきます。調べるうちに彼らが、暗い過去を経て闇落ちしたあのSF映画のキャラクターと重なって見えてきました。彼らの真の姿とはどういうものなのでしょうか。そんなゴキブリたちの生きる姿を、架空のお話として仕立ててみました。このお話を通じて前よりも少し彼らのことを知り、あなたにとって少しだけ心を許せる存在になりますように。

12 MESSY IN LETTERS PRETTY IN PATTERNS

末廣 翼 Tsubasa Suehoro

身の回りにあふれている「文字」たち。それらのほとんどは、形状の違う色々な形が整って見えるように、目の錯覚を利用してデザインされています。例えば「O」はただの丸じゃない？ 「T」の縦棒と横棒は太さが違う？ 「E」の真ん中の棒は実は真ん中じゃない？ 今回はあえて「デザインを行わない」アルファベットをデザインしました。1文字としては未完成で読みづらく、いわゆるMESSY(きたない)ですが、そんな彼らも集まれば不思議とPRETTYに(かわいく)見えてくる。展示場所にちなんで、ファッションアイテムであるTシャツに仕上げました。これを着て街に出て、日頃見慣れた文字たちを、文字の見た目という視点で楽しんでください。

13 肌色の『人物ピン』

志岐 碩駿 Hirotoishi Shiki

『人生ゲーム』で駒として使用する、男性と女性を表す水色とピンクの『人物ピン』。そのピンの色が、性別を表すものではなく、多様な肌の色だったらどうだろう。結婚をする相手は異性だろうか。同じ国籍の人だろうか。同じ日本人でも肌の色は人それぞれだ。特に、幼少期は自分と違う国籍の人と出会う機会が少ない。多様な肌の色に触れる機会のひとつとして、見た目(性別や人種)に囚われない、これからの『人物ピン』をつくりました。あなたは、どの肌色で遊びますか。